

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 3 月 31 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	泉 絢也
研究課題	通貨に対する課税制度の研究				
研究キーワード	通貨、租税、暗号資産（仮想通貨）、テクノロジー	当年度計画に対する達成度	1. 目標を超える研究の進展・成果を達成した		
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	10. 人や国の不平等をなくそう	16. 平和と公正をすべての人に	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>2 ①の論文において、AI・ロボット税に関する諸外国の研究を整理し、我が国における議論の進展のための素材を提供する中で、AI やロボット自体の法人格や納税義務等を観念した場合に相性のいいデジタル通貨や暗号資産、ブロックチェーンの利用や、特定の管理者・運営者が存在せずに自律的に運営される組織であるDAO（自律分散型組織）の構想に関する課税問題について指摘した。2 ②～④の論文において、暗号資産と関係が深く暗号資産に該当することもありうる NFT について、個人所得税の取扱いを明確にするとともに、実物資産とデジタル資産との取扱いの相違の合理性の問題を指摘した。また、暗号資産の海外の税制に関する学会発表も行った。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>①【論文】「AI・ロボット税の議論を始めよう―「雇用を奪う AI・ロボット」から「野良 AI・ロボット」まで―」 泉絢也、単著、千葉商大紀要 59 巻 1 号、25～51 頁、2021 年</p> <p>②「NFT(ノンファンジブルトークン)の譲渡による所得は譲渡所得か？非課税所得か？―NFT の「生活に通常必要な動産」該当性―」 千葉商大論叢 59 巻 3 号、143～174 頁、2022 年</p> <p>③【論文】「NFT(ノンファンジブルトークン)の損失に対する損益通算・雑損控除の適用―NFT の「生活に通常必要でない資産」該当性―」 泉絢也、単著、千葉商大紀要 59 巻 3 号、91～115 頁、2022 年</p> <p>④【論文】「NFT（ノンファンジブルトークン）と所得税法上の課税問題」月刊税務事例 54 巻 3 号、泉絢也、単著、41～55 頁、2022 年</p> <p>【学会発表等】</p> <p>「暗号資産の海外の税制」、暗号資産税制ワークショップ、国際商事研究学会、2021 年 12 月 17 日、オンライン</p> <p>「トークン等の課税問題」、自民党デジタル社会推進本部 NFT 政策検討 PT、2022 年 3 月 31 日、オンライン</p> <p>3. 主な経費</p> <p>関連書籍や法律雑誌の購入等に使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【科学研究費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手研究：平成 31 年度～令和 4 年度、代表、課題名「租税法と通貨～外国通貨及び仮想通貨の課税制度を中心とした比較法研究～」(JSPS 科研費 19K13498) <p style="text-align: right;">(本文は 2 ページ以内にまとめること)</p>					